

いよいよオリンピック開幕ですね。1896年（日本は明治29年）に始まった近代オリンピックは、今回で31回目になります。

日本が初めて参加したのは、明治45年（1912）にストックホルムで開催された第5回大会です。次のベルリン大会は第一次世界大戦により中止されたので、2回目の参加は大正9年（1920）のアントワープ大会でした。

ところで、その同じ大正9年の9月4・5日の2日間、青森市でもオリンピックが開催されました。それは「第1回 県下オリンピック大会」です。この大会は青森県で初めての公式な陸上競技の県大会で、大日本体育協会（日本体育協会の前身）青森県支部の創設を記念して開かれ、当日は開会式に先がけて支部の発会式も行われました。



青森中学校
(大正期、歴史資料室蔵)

青森中学（現青森高校）グラウンドで開かれた大会には、県内各地の学生・青年団員など400名が参加し、観衆は男女学生を主とする数千人。青森市からは師範学校生徒や、青森中学の生徒・OBによるスパルタ倶楽部などが出て活躍しました。

青森県でも明治の中頃から「走る」ことは各地の学校を中心に行われるようになってきていましたが、正式な競技として経験した者は少なく、英語の「オンユアマーク…」という出発の合図にまごついたり、ピストルの音に合わせてスタートできなかったり、抜け目がない人は音の前に走り出しスタート位置を後に下げられたり。他にも、真っ直ぐに走る、コーナーで速度を落とさない、1等ではなくてもゴール前で投げ出さない、ゴールテープを切る姿勢、短距離と長距離で走り方を変えるなどいろいろな課題が見えてきました。

また、フィールド競技では高飛びのバーが大会まで到着せず、綱に砂袋のおもりをつけたもので代用し記録が不正確になるなどアクシデントがありました。走幅跳では踏切板を使ったことがない人も多かったようで、歩数を合わせるのに苦労したようです。

参加資格は15歳以上の男子でしたが、番外として小学生のリレーや女子100メートル走などもあり、当日は幅広い人達が競い合いました。

第2回大会には秋田や函館からの参加もあり、第3回以降は東北六県と北海道に範囲を広げ、国際オリンピックの予選を兼ねたりもし、昭和初期まで続けられました。



大正初期の新町通り
(『目で見る青森の歴史』より)

ちなみに、オリンピックという名称は、大日本体育協会がストックホルム大会の際に全国に配布した選手予選会のパンフレットが陸上競技のみだったので、以来陸上競技大会を「オリンピック競技大会」と呼んだのではないかということです。

※今回は『青森県体育協会史』、『東奥日報』記事を参考としました。